

邱君妮

平成 25 年度「卓越した大学院拠点形成支援補助金」事業 研究成果レポート

## 1. 事業実施の目的

本計画の目的は、博士論文研究を行う際により広い視野で分析できるよう、隣国の博物館政策における歴史的空間・建築物の保存・活用の位置づけ及び動向に関する調査を行うことである。

## 2. 実施場所

日本・東京、韓国・ソウル、中国・北京

ICOM 日本委員会 日本・東京

ICOM 韓国委員会 韓国・ソウル

ICOM 中国委員会 中国・北京

ICOM International Training Center for museum studies 中国・北京

## 3. 実施期日 平成 25 年 12 月 20 日 ～ 平成 25 年 12 月 28 日 (9 日間)

## 4. 成果報告

### ●事業の概要

これまで文化遺産を博物館の形で保存・活用することに関する研究は数多くなされている。例えば、文化遺産がその所在する地域の人々に自己の歴史・文化への注視を促したり、文化的アイデンティティを高める効果があることや、博物館が文化観光開発の資源として、経済効果をもたらすことが、近年の研究によって明らかにされつつある。

申請者の博士論文研究は、文化遺産の価値を再認識させ、特にその中で重要な役割を果たした「歴史的空間・建築物を博物館として保存・活用する」文化財政策及び博物館政策上の位置づけ及びその動向に焦点を当て、台湾と日本における個別事例の研究及びそれらの検証によって、その問題点を明らかにし、将来の政策に向けた提言までつなげようとする研究である。

その研究の背景となる博物館や文化財保護に関する法制度が日本と類似している隣国の博物館政策上の動向について情報を収集することにより、より広い視野で分析できるよう、韓国及び中国の関連組織を訪問した。

具体的には、ICOM 日本委員会が設置した調査委員会のメンバーとともに、ICOM 韓国委員会（ソウル）及び ICOM 中国委員会（北京）を訪問し、韓国及び中国における「歴史的空間・建築物を博物館として保存・活用する」政策や博物館学研究の動向についてインタビューを行った。

また、訪問にあわせて、歴史的空間・建築物を博物館として保存・活用している事例である国立現代美術館ソウル館（2013 年 11 月開館）、文化の駅ソウル 284（旧ソウル駅舎、2011 年 8 月開館）、北京新文化運動記念館（2002 年 4 月開館）及び故宫博物院を見学した。さらに、今年 1 月に北京の故宫博物院内に設置された ICOM-ITC（International Training Center for Museum Studies）を訪問し、中国における国際的な博物館戦略について情報を収集した。

### ●本事業の実施によって得られた成果

本計画の実施により、

1. ICOM 日本委員会の調査チームへの同行・通訳を通じて、学生としては調査許可をもらうことが困難な ICOM 韓国委員会と ICOM 中国委員会への訪問調査を行うことにより、博士論文研究の分野に関する貴重な情報源を得ることができ、日本のみならず韓国及び中国の博物館関係者・研究者との

交流ができた。

2. 日本では入手することができない博士論文執筆に参考となる貴重な博物館政策等に関するデータを収集することができた。これらの資料は、今後の博士論文研究をさらに展開していくための重要な素材となる。

3. 国の文化財保護政策によって歴史的空間・建築物を博物館として保存・活用すること及びそれらの政策が地域コミュニティの活性化にする効果等について、日中韓及び台湾との比較を行うことによって、より広い視野で分析することが可能となり、博士論文研究に還元することができる。また、その調査結果を査読論文としてまとめ、2014 CAMOC Conference (The International Committee for the Collections and Activities of Museums of Cities)に投稿し採用され、8月に発表する予定である。